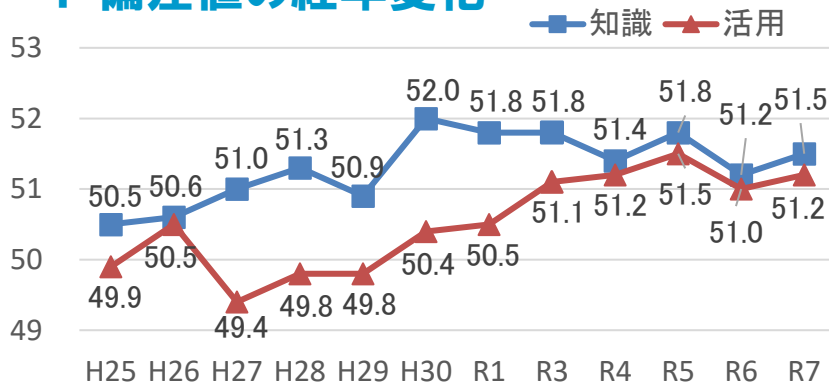


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

2 観点別の結果

観 点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	70.7	67.7	66.0
思考・判断・表現	65.4	62.2	58.3

○全ての観点において、全国正答率を上回っている。

3 領域別の結果

領 域	県正答率	全国正答率	目標値
言葉の特徴や使い方に関する事項	72.6	69.1	67.5
情報の扱い方に関する事項	52.0	53.3	50.0
我が国の言語文化に関する事項	74.6	71.1	70.0
話すこと・聞くこと	76.6	75.0	68.3
書くこと	64.5	58.3	53.3
読むこと	60.8	59.6	58.3

○〔知識及び技能〕の2つの事項、〔思考力、判断力、表現力等〕のすべての領域において全国正答率を上回っている。

▲〔知識及び技能〕「情報の扱いに関する事項」で、全国正答率を下回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	67.8	67.2	63.0
短答	69.2	65.2	65.6
記述	64.8	58.4	52.5

○全ての解答形式において、全国正答率を上回っている。

■ つまづきが見られた問題

大問6(3) 県正答率 56.5% 県無解答率 19.9%

※出題の意図

読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかを見る問題である。

【問題の概要】

小川さんが書いた【文章の下書き】の一部について、私たち個人がどのように取り組むべきかと、どのくらい服の廃棄量を減らすことができるのかについて、【資料】をもとに、具体的に書き加える問題。

生徒の実態として、以下の課題があることが考えられる。

■読み手の立場に立って、文章を整える際に、伝えようとする事実や事柄、意見などが十分に表されているか検討して推敲することができていない。

★ 指導の具体例

単元名「『地域の魅力』の紹介文 効果的に伝えよう」(東京書籍 2)

- ① 学習の見通しをもつ。
- ② 紹介することを決め、情報を集めて整理する。
- ③ 文章の構成を考える。
- ④ 地域の魅力が伝わるように工夫して紹介文を書く。
- ⑤ 教師が提示した紹介文を書き手の意図が読み手に伝わる文章になっているかという視点で読み、よい点や改善点について気付いたことを、各自でノートに書く。

⑤で書いた内容について、グループで交流する。



「この施設はとても人気です。」という部分が分かりづらいと感じました。読み手にとっては、どんな人に、なぜ人気があるのかが書いてあった方が、より伝わりやすいと思います。



私もその部分が気になりました。一日何人が訪れるかなど、具体的な数値があったほうが、人気であることをより伝えられると思います。



「トンネルを通り抜けると」という表現がよいと思いました。読み手は、トンネルの先を想像してワクワクしてくると思います。

⑤のまとめ

読み手に効果的に伝わるような文章とするには、
文字や記述が正しいか、漢字と仮名の使い分け、語句の選び方や使い方が適切か
文や段落の長さ、文や段落の役割、段落の順序、語順が適切か
説明や具体例、描写などの表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているかなどに、注意して、文章を読み返すことが大切である。

- ⑥ 各自で紹介文を推敲する。
- ⑦ 学習を振り返る。

◆ 指導のポイント

指導に当たっては…

- ・推敲する際、集めた情報と書いた文章を見比べながら、より具体的な内容を示した方がよい部分はないかなど、伝えようとする事実や事柄、意見などが十分に書き表されているかどうかを検討することが必要である。
- ・また、書き手としてではなく、読み手の立場に立ち、伝えようとする情報が伝わるかどうかを確かめるために、読み手からの助言などを踏まえて、推敲の視点を見出せるようにする。